平成１７年度　全国高等学校総合体育大会　サッカー競技

大会名	平成１７年度 全国高等学校総合体育大会 サッカー競技	第2日	2回戦	平成 17 年 8 月 3 日 (水) 11：45 キックオフ	競技時間	70分 PK戦	記録者	前田 真吾 福田 一希 安藤 哲也
会場	市原スポレクパーク B	天候 (晴) 曇 雨	風 強 (弱) 無	芝 (土)	状態 (良好) 不良 泥沼	審判	主審 中野 卓	副審 北村 修一 吉川 雅之	第４の審判員 野口 豪志

【チーム名】	kick off		【チーム名】	kick off
青森山田 高等学校 （青森）	先	2	刈谷 高等学校 （愛知）	先 1
背番号	○ ×		背番号	○ ×

	前半	後半	延前	延後	PK戦
	1	1			
	0	1			

シュート（得点者は＊印） 交代時間	延後	延前	後半	前半	学年	選手名	背番号	位置	位置	背番号	選手名	学年	シュート（得点者は＊印） 前半	後半	延前	延後	交代時間
分					2	大久保隆一郎	1	GK	GK	1	中野 敦雄	3					分
分					3	澤本 将弘	3	DF	DF	2	真野 竜伸	3					分
分					3	鈴木 琢朗	4	DF	DF	14	木下 佳大	3					分
分				1	3	百目木雅臣	7	DF	DF	(4)	朝田 耕平	2					分
59 分				1	3	高橋 良信	13	DF	MF	7	藤井 啓介	3		2			分
分				1	3	櫛引 祐輔	5	MF	MF	16	大森 崇弘	1	1				分
63 分				1	3	馬見塚 光	6	MF	MF	8	山岡 達也	3	1				分
分					3	松本 怜	8	MF	MF	10	高木 将	3		4			分
49 分				2	2	ﾍﾞﾛｶﾙ･ﾌﾗﾝｸ	9	MF	FW	9	岩田 琢磨	3	1				分
分			1	3	3	小澤 竜己	(10)	FW	FW	11	後藤 翔太	3	1	3			分
交代選手 分			＊ 2	＊ 2	3	伊東 俊	11	FW	FW	13	伊藤 裕貴	2	2	1 ＊			分 交代選手
交代要員																	
番 分					3	松原 直毅	12	GK	GK	17	太田 雄二	2					分 番
13 番 分					3	川邊 裕紀	2	DF	DF	3	藤田 隆彦	2					分 番
6 番 分					3	木村 翔	15	DF	DF	5	柴田恭司郎	2					分 番
9 番 分			1		2	板倉 大智	16	MF	MF	6	小林 歩	2					分 番
番 分					1	佐々木絢也	14	FW	MF	12	上山 輝	2					分 番
番 分					2	川西 翔太	17	FW	FW	15	藤原 玄	2					分 番
	0	0	4	11	小計	15	合計	シュート数		合計	16	小計	6	10	0	0	

警告（C）・退場（S）など	合計	延後	延前	後半	前半	チーム合計	前半	後半	延前	延後	合計	警告（C）・退場（S）など
１３分 ⑨ C ラフプレー	11			8	3	G K	11	4			15	１８分 ⑯ C ラフプレー
５０分 ⑪ C 繰返違反	6			3	3	C K	2	0			2	４５分 ⑩ C ラフプレー
６９分 ③ C 遅延行為	7			3	4	直接 FK	5	7			12	
	0			0	0	間接 FK	1	1			2	
	0			0	0	P K	0	0			0	

時間	得点者	アシスト	得点経過	時間	得点者	アシスト	得点経過
4 分	伊東	澤本	(中央)③FK ∩ (中央)⑪ 6mHS	55 分	伊藤		(左)⑬～ (左)⑬∩クロス直接ゴール ３０m
36 分	伊東	小澤	(中央)⑤ →(左)⑩∩ (中央)⑪6mS	分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			
分				分			

《略号例》 ～: ドリブル →: ゴロのパス ∩: 浮球のパス H: ヘディング HS:ヘディングシュート ×: 混戦 S:シュート

戦評者氏名 （ 大川 晃広 ） 勤務先又は所属 （ 静岡県立清水工業高等学校 ）

青森山田４－４－２、刈谷３－２－１で始まったゲームは技術、戦術で上回る青森山田がボールをキープし主導権を握った。開始早々、４分に刈谷ＤＦラインの裏に走りこんだ⑪伊東が技ありバックヘットで先制したがその後ペースダウンし、一進一退のゲーム展開となった。刈谷はポジションを広くとり、丁寧にパスをつなぎながらサイド突破を図る展開でチャンスを作り、ゴールに迫った。後半早々青森山田は右サイドのボールから加点し、ゲームを決定づけた。刈谷も最後まで諦めることなくボールをつなぎ一点返して追いすがったがあと一歩及ばなかった。両チームともにマイボールを大切につなごうとする姿勢は好感が持てた。